

Interview

横坂 源

Gen Yokosaka

「チェロ」

チェロ協奏曲を3曲、「Gen's Day」の「名曲全集」

2月の「名曲全集第154回」は、今最も活躍している若手チェロ奏者・横坂源が出ずっぱりの演奏会。名チェロ協奏曲2作に加え、委嘱新作の日本初演という意欲的なプログラムについて語っていただきました。

インタビュー ● 宮本明（音楽ライター）

いま、日本のチェロ界は才能ある新世代の奏者が次々に登場して百花繚乱。2月、「名曲全集」に出演するのは、そのトップランナーの一人として走り続ける横坂源。なんとチェロ協奏曲を3曲！しかも弾き振るまで！獅子奮迅の活躍を見ることができるとはうれしい。

「協奏曲3曲というのは初めてです。古典、ロマン、日本初演と、異なる時代の特徴を選びました」

ハイドンは古典派のチェロ協奏曲の代表作。

「のびのあるチェロの旋律、ロックの先駆けとなる縦の激しいリズムやハーモニー進行な

ど、常に新たな挑戦と遊び心を好んだハイドンの魅力を楽しめる1曲。今回は指揮者を置かず、細かなニュアンスを共有する、密な室内楽の対話をお楽しみください」

ドイツの女性作曲家ズザンネ・ツァーガル「スヴィリドフの「つばき」は横坂の委嘱作品で、2019年10月にドイツで初演した新しい作品。

「彼女とは、私が留学を始めた2006年にドイツの音大で出会いました。ドイツ語がまったく話せず、必死にノートを取る姿が面白かったようで、私の演奏を聴かないうちから、『曲を書いたら演奏してくれろ。』と言ってくれて、実際、翌年ドイツで新作を初演したのが親交のきっかけとなりました。尊敬する彼女の楽曲をいつか日本で演奏したいと願っていた夢が叶います。曲は、椿の花びらが1枚ずつ散るはかない時間とチェロの呼吸、すなわち歌心がインスピレーションの源泉となっています。性格の異なる5曲の組曲で、全体を通し

©GOTA PHOTOGRAPH TOKYO JAPAN



て12音技法特有のぶつかり合う緊張の中、弦楽器の息の長いフレーズときらめく金管、打楽器、ハーブのリズムが混ざり合い、チェロもその世界の一部として織り混ぜられていく、詩的な印象です」

そして「ドヴォルザーク」の愛称で親しまれるドヴォルザークの名曲。

「オーケストラとチェロがひとつに集約されていくシンフォニックな響きを感じていただけたらうれしいです。インターネットのない時代に書かれた音楽には、人間の内面を赤裸々につづった作曲家の精魂が脈々と息づいており、ドヴォルザークもそのひとりです。癒しだけではなく、人が生き抜くための強さの根源とも言える気高い精神を感じます」

新潟市出身。東京交響楽団との初共演も地元新潟で、13歳の時だった。

「迫力あるサウンドが後ろから降ってきた瞬間の感動を、今も大切にしています。その後も辛抱強く声をかけていただき、ソリストとしての貴重な学びの時間をいただきました。成長した姿をお見せできるよう全力で挑みたいと思っています」

フォイアマンやピアティゴルスキーら往年の巨匠たちの、音楽哲学を芯に秘めた表現に憧れるという横坂。数年前の取材で「連絡はガラケーとファックス」と話していたの

が印象的だった。さすがに今は……と思うたら、「ガラホになりました(笑)」と少し近代化。そんなある種の古風な頑固さも、つねに「人間味」を感じさせる温かい表現に結びついているのだと思う。始めから終わりまで出ずっぱりの「Gen's Day」。見逃せるわけがない。

指揮：齋藤 友香理 チェロ：横坂 源

- ハイドン：チェロ協奏曲 第1番（弾き振り）
- ズザンネ・ツァーガル＝スヴィリドフ：つばき（横坂源による委嘱作品・日本初演）
- ドヴォルザーク：チェロ協奏曲

ミューザ川崎シンフォニーホール
＆東京交響楽団
名曲全集 第154回
The Masterpiece Classics Series No.154

2020年2月9日 日 14:00開演

S ¥6,000 A ¥5,000 B ¥4,000 C ¥3,000

◎友の会料金 S ¥5,400 A ¥4,500 B ¥3,600 C ¥2,700

◎当日学生券（25歳以下の学生） ¥1,000（要問合せ）